

盆栽の国際化

盆栽は世界に対して日本を表す幾つかの象徴のひとつです。このような象徴的な地位に至る道は、日本が2世紀以上にわたって自らに課した孤立ののち世界に国を開いた19世紀末ごろに始まりました。各国が自国の文化的・産業的・その他の領域での功績を披露していた万国博覧会で、日本は自国を全地球的な地図に置くことに躍起となっていました。日本は1873年のウィーン万博に参加して絶賛を受け、その5年後の第3回パリ博覧会（1878年）で設けられた日本庭園の一部として盆栽が展示されました。日本に旅行したことのある人を含めても、ヨーロッパ人で過去に盆栽を見たことのある人はほとんどおりませんでした。

第4回パリ博覧会（1889年）によって、盆栽は洗練されたパリ人たちの話の種になりました。彼らは数人の日本の第一線の個人所有者から借りてこられた盆栽に魅了されました。このこととフランスの「ジャポニスム」ブームは同時に起こっており、フランスは今日もなお現代日本文化に最も理解のある国のひとつです。

第二次世界大戦によって一時的に盆栽の国際化のペースは挫かれましたが、戦後復興から1950年代のあいだに、大宮盆栽村の盆栽家たちが勢いを取り戻そうと力を尽くしました。彼らの活動は連合国による占領を取り仕切った役人たちの注意を引き、日本人・外国人両方の政治家や高官を大宮訪問に惹きつけはじめました。

1964年の東京オリンピックでは、15日間の試合の開催期間に合わせて東京・日比谷公園で盆栽の展示が行われ、盆栽という芸術形式を多くの外国人訪問者に紹介しました。国際的な盆栽の認知は、1970年の大阪万博でさらに拡大しました。盆栽の大規模な展示は大阪万博が行われた半年間にわたって行われ、日本中から集められた約2,000の盆栽が展示されました。1976年には「盆栽」の語がオックスフォード英語辞典に新たに掲載され、盆栽という芸術形式が真に世界的な認知に達したことを裏づけました。

盆栽の国際化は21世紀に至るまで続いています。1989年に大宮で初めて開かれた世界盆栽大会は、4年ごとに世界の異なる都市で盆栽ファンたちを集めており、これまでに米国・ドイツ・中国その他の国々で主催されてきました。日本のポップカルチャーが世界中の人たちの心を捉えるにつれ、盆栽のモチーフがファッション業界やヘアスタイルにまでも登場しており、2020年のオリンピックはさらに盆栽の世界的な注目度を高めるでしょう。